

Disability Inclusion Activities and changes in Japan

VIDEO TRANSCRIPT

我々の活動は障がいのある方々が強みを活かして生き生きと働ける環境を作っていくのが中心になります。本来であれば、将来的には障がいのありなしで環境を整えるということではなくて、個々人それぞれの強みを活かした会社を作っていくというのがゴールにはなりますが、環境が整っていないという状況の打破が先決ですので、そういった意味においては障がい特性に注目しています。

ある特別な環境を整えることによって、劇的に働きやすさが変わるといった障がい特性のある方がいますので、そういった社員に着目して環境を整えることを第一に取り組んでいます。

活動内容を教えてください

サテライトで働く場所を複数作って環境を整えていく活動もしています。ここに今、何十人もの社員が働いています。より自らの専門性を活かして高度な仕事をもらうために、どんな仕事か（障がい特性のある方にとって）得意な仕事なのか、あるいは専門性が活かせる仕事なのかを研究して会社の中からそういう仕事を集め、（対象となる社員に）仕事を行ってもらうことを業務にしているチームもあります。

活動として一番大きいのが、12月に行われている国際障がい者デーに合わせた一大イベントです。1年に1回にはなりますが、障がいのある方、その周辺にいる方、関心のある方に幅広くお声がけし、一同に会して色々なテーマについて議論をしています。

また、この年に一回の活動だけではなくネットワークも広がっていきませんので、1カ月に一回もしくは2カ月に一回ぐらい、もう少しこじんまりとしたイベントを開催して、時にはゲストスピーカーを招いて障がいについて考えるというようなテーマで行ったり、時にはお酒を飲みながら、それぞれ自分の興味関心を友達として語り合うようなイベントもしています。今は障がいのある方に着目して、その方々の働きやすさを改善するために、例えばコミュニケーションツールとして実際に音声拾って文字にするようなツールも作っています。

これは第一義的には障がいのある社員に活躍・活用してもらっていますが、実は今では、グローバルとの電話会議をする際に音声を自動的に拾い、それを文字に落として自動で議事録にしてくれるといったツールに進化しています。まさにイノベーションです。もともとは障がいがあるというところに着目して商品開発をし始めましたが、より幅広い対象の方に使っていただけるような活動に進化しています。今後もこういった活動を進めていきたいと考えています。

活動を続けてきて、社内でどんな変化を感じましたか？

当初は障がいのある社員が働きやすい会社を作っていくため、まずは障がいのある社員の中から有志でチームを作って、自発的に会社の環境をよくする活動をしてきました。そこから挙がってきた色々な案を一個一個、人事制度に組み込んでいきました。例えば、移動が困難なので、毎日通勤しなくてもいいようになったり、雨がひどいときは急遽入社しなくてもいいようにしたりなど、個々のニーズに合わせた制度を導入、努力してきました。

こういったことが進んだことで、まずは障がいのある社員がだいぶ働きやすい会社になったと思います。周辺を巻き込んでいくところは、まだまだスーパーバイザーや、仕事上の関わりがある社員などが中心にはなりますが、自分の入った会社が、こんなことをやっているとは知らなかったといった声も多数いただきます。最近では若い方も学生のころからボランティアをやるなど、社会課題に関心のある方が多いので、積極的に手を挙げて自らもそうした活動に参加したいという声も多くいただくようになってきました。

社会全体で目指す姿について教えてください

障がいのある方々、障がいのあると1口に言っても本当に一人一人がかなり異なる状況ではあります。それぞれの障がいの種類ごとに、例えば静かな環境を作って活躍してもらいやすくする、業務の切り方の粒度を少し細かくする、日々の達成状況を細かく可視化をしてやりがいを継続的に持ってもらう、あるいは決まった時間の中で1日8割を働いてもらうが空き時間をうまく使ってスキルアップをしていくといったことをやってきました。

我々には、今までやってきた色々な取り組みがありますので、これを他の会社の方々にも活用いただける機会を探し、積極的に広めていければと思っています。

Copyright © 2023 Accenture
All rights reserved.

Accenture and its logo are
trademarks of Accenture.